

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定）

- 1 【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について
- 2 地域活性化プラン一覧
- 3 地域活性化プランに関する問合せ先

【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について

H26 プラン策定数 51プラン

<桑名市>

- ・「結びの神」研究会：産地の強化
- ・（有）すずらん：障がい者雇用
- ・下深谷農家組合：集落営農の強化

<いなべ市>

- ・（農）大地ふぁーむ：障がい者雇用

<木曾岬町>

- ・JAみえきた（木曾岬町女性部）：直売所

<東員町>

- ・東員町ふらわあ〜びれっじ運営協議会：直売所

<いなべ市・東員町>

- ・JAみえきた（飼料稲）：産地の強化

<四日市市>

- ・智積町農家組合：農産物の付加価値化
- ・北五味塚農地組合：集落営農の強化
- ・西阿倉川農家組合：集落営農の強化

<鈴鹿市>

- ・JA鈴鹿（受託後継者部会）：産地の強化
- ・鈴鹿花き温室組合：産地の強化
- ・鈴鹿茶・新品種研究会：産地の強化

<四日市市・菰野町・桑名市・いなべ市>

- ・JAみえきた（高設イチゴ研究会）：産地の強化

<鈴鹿市・亀山市>

- ・鈴鹿大麦若葉生産研究会：産地の強化

<広域>

- ・ニューファーマーズ倶楽部：農産物の付加価値化

<津市>

- ・一志・白山キャベツ部会：産地の強化
- ・JA三重中央（なばな部会）：産地の強化
- ・酢eatlady 白山：産地の強化
- ・JA津安芸（芸濃ずいき部会）：産地の強化
- ・久居果樹振興協議会（梨部会）：産地の強化
- ・そらまめ：地域コミュニティの維持
- ・美杉の台所kirin：農産物の付加価値化
- ・愛菜果：新産地づくり
- ・にぎやか畑：農産物の付加価値化

<松阪市>

- ・（農）サンライズ嬉野：集落営農の強化
- ・西肥留営農組合設立準備委員会：集落営農の強化
- ・下茅原営農組合：集落営農の強化
- ・JA松阪いちご部会：産地の強化
- ・紅工房：産地の強化
- ・ベルファーム農家市場ベル農会：直売所

<多気町>

- ・JA多気郡伊勢いも部会：産地の強化
- ・片野営農組合：集落営農の強化
- ・西池上営農組合：集落営農の強化

<明和町>

- ・坂本農家組合：集落営農の強化

<伊賀市>

- ・JAいがほくぶ（なばな部会）：産地の強化
- ・JAいがほくぶ（直売部会）：直売所
- ・（企）旬菜工房 笑み：農産物の付加価値化
- ・（農）市部営農組合：集落営農の強化

<名張市>

- ・JA伊賀南部（なばな部会）：産地の強化

<尾鷲市>

- ・NPO法人天満浦百人会：集客交流

<御浜町>

- ・（有）すぎもと農園：産地の強化

<紀宝町>

- ・紀宝町水田営農推進協議会：集落営農の強化
- ・（農）紀宝マイヤーレモン生産組合：産地の強化

<伊勢市>

- ・JA伊勢バラ部会：産地の強化
- ・JA伊勢青ねぎ部会：産地の強化
- ・宮前生産調整実行組合：産地の強化
- ・JA伊勢蓮台寺柿部会：産地の強化

<鳥羽市>

- ・麻生の浦会：集客交流

<度会町>

- ・伊勢緑茶加工センター（有）：産地の強化

<大紀町>

- ・若瀬の集落営農を考える会：集落営農の強化



地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
桑名	いなべ市、東員町	JAみえきた(飼料稲)	飼料稲を活用した「いなべ地域」農業の振興	平成24年から飼料稲の栽培を開始し、現在、栽培面積は約100haとなっている。平成24年は飼料米専用品種を、25年は普通粳品種を栽培したものの、病害虫の発生等により基準収量に比べ低収傾向にあった。飼料稲は、地域の基幹作物であることから、地域に適した品種選定等を行い、生産増を図る必要がある。	地域に適した栽培品種の選定 高収量安定生産技術の確立 栽培指導者の育成 実需者ニーズの把握による新たな販路の開拓	・反収 600kg(粗玄米) ・養成指導者 2名 ・栽培講習会等実施 2回/年	H26.9
桑名	桑名市	「結びの神」研究会	栽培マニュアルの策定による「結びの神」の生産規模拡大	「三重23号」は、平成24年度から県内各地で栽培が開始された。「結びの神」に認定されるためには定められた基準を満たす必要があるものの、平成25年まで当地域では生産者が1名のみで、他地域に比べて技術的な知見が乏しい。そのため、三重23号の普及と安定生産のため、地域の栽培条件に適した栽培方法を確立させる必要がある。	○栽培実績に基づく適正な栽培方法の検討 ○地域に適応した肥培管理方法の確立 ○圃場巡回や勉強会を通じた相互研鑽	・最適資材の決定 ・勉強会等の開催(2回/年)	H27.3
桑名	木曽岬町	JAみえきた木曽岬町女性部会	農産物直売所への次代の出荷者の養成	町内の直売所は、出荷者の高齢化等により品揃えが困難になってきており、「地場産」と「鮮度の高さ」といった直売所の強みを生かしきれなくなっている。また、生産技術の伝承も途切れつつある。こうしたなか、直売所のリニューアルされたことから、次代の出荷者の育成が求められている。	○品種や播種時期の組み合わせによる野菜の長期出荷 ○特徴ある野菜(機能性野菜等)の生産	現状(H25) 目標(H29) 新たな出荷者 - 10人	H27.3

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
桑名	東員町	東員町ふらわぁ～びれっじ運営協議会	朝市活性化プラン	町内の農地は、ほ場整備事業により汎用化が進み、麦・大豆の作付が定着しているものの、施設野菜や園芸作物は極めて少ない。こうしたなか、園芸作物等を販売する朝市の開催を通じて地域農業の活性化や地産地消を推進することが求められている。	○朝市の活性化(品揃えの充実や集客イベントの開催等)	現状(H25) 目標 (H28) 平均来客数 50人 100人	H27.1
桑名	桑名市	有限会社 すずらん	農福連携事業の継続に向けたすずらん農園の経営基盤の強化	国営農地開発事業で整備された農地で障がい者を雇用しながら野菜を栽培している。未成熟な土壌や鳥獣被害、多品目栽培での煩雑な作業、労働力不足などから生産量が増えず、経営が安定しない。	○栽培品目の絞り込みやビニールハウスの有効活用による収益性の向上 ○作業の省力化と作業領域の拡大 ○作業ポイントのマニュアル化	現状(H26) 目標 (H29) 年間販売額 500千円 18,000千円	H27.3
桑名	いなべ市	農事組合法人大地ふぁーむ	農福連携事業の継続に向けた農事組合法人大地ふぁーむの経営基盤の強化	耕作放棄地を開墾し、障がい者を雇用しながら野菜を栽培している。未成熟な土壌や鳥獣被害、多品目栽培での煩雑な作業、労働力不足などから生産量が増えず、経営が安定しない。	○栽培品目の絞り込みやビニールハウスの有効活用による収益性の向上 ○作業の省力化と作業領域の拡大 ○作業ポイントのマニュアル化 ○鳥獣被害防止対策	現状(H25) 目標 (H28) 年間販売額 1,000千円 8,000千円	H27.2

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
桑名	桑名市	下深谷農家組合	下深谷農家組合を核とした水田および地域環境の維持発展	高齢化等により農業従事者が減少するなか、水田は、地区内の担い手2名に集積されつつある。この営農体系が継続されるよう、農地集約と水田の維持管理に関するルールづくりが必要となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○地区内担い手への農地集積 ○地権者と担い手との役割分担による基盤整備田の維持管理 地域の農業関連施設の維持策の検討 未整備田等の維持方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地集約化ルール策定 ・地権者と担い手との役割分担による基盤整備田の維持管理に関するルール策定 ・地域の農業関連施設の維持管理に関するルール策定 	H27.3
四日市	鈴鹿市、亀山市	鈴鹿大麦若葉生産研究会	鈴鹿地域の主産地の担い手が連携した大麦若葉生産	地域の主要作目である花木、茶、米・麦・大豆の生産農家が連携して、大麦若葉の生産・一次加工を3年前に開始した。組織を有機的に機能させながら栽培面での技術的課題である優良品種の選定や、契約業者への販売強化などに取り組みながら産地規模を拡大させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ○専用品種の選定 ○高品質安定生産技術の確立 ○栽培暦の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産面積 40ha ・生産量 生葉140t(製品25t) 	H26.9
四日市	鈴鹿市	鈴鹿農業協同組合受託者後継者部会	次代をになう農業後継者の技術力並びに経営力向上への取組	農家戸数や農業就業人口が減少するなか、認定農業者を中心として後継者が育ってきており、後継者による部会が設立された。構成員には、就業後間もない人も多く、今後、農業経営の主体となっていくためには、稲・麦・大豆栽培の基本技術の習得や経営能力の向上などが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> ○収量、品質の向上 ○経営の高度化に向けたノウハウの習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術等の実証、導入(年1技術) ・新技術や成功事例等の地域への波及 ・経理、税務関係知識等の習得 	H26.12

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
四日市	鈴鹿市	鈴鹿花き温室組合	実需者交流の機会を生かした”売れる商品”サイクルづくりを鈴鹿の地から	鉢物生産は、大きな産地がまとまっていないうえ、品目や品種が多いため個人単位で市場に出荷するケースが多くなってきている。さらに、全国的な需要減少を背景に市場単価が低迷していることから、実需者（一般消費者、生花店、卸等）ニーズに対応した商品を生産していく必要がある。	○大型商業施設等での一般消費者への商品提案と意見収集 ○商談会への参加を通じた情報収集 ○地元大型商業施設での即売会、園芸教室、フラワーバレンタイン等を通じたPR活動	・組合即売会売上 現状(H26) 母の日 350万円 迎春 70万円 目標(H34) 400万円 80万円 ・各組合員の新品提案数 年1品以上	H27.2
四日市	四日市市、菰野町、桑名市、いなべ市	JAみえきた高設イチゴ研究会	JAみえきた管内のイチゴ高設栽培を行う生産者ネットワーク強化による、生産・販売力の向上に向けた取組	当産地は、高設イチゴ栽培が始まって10数年の新しい産地で、生産者も比較的若い世代が中心となっている。これまで生産者は、観光イチゴ園や軒先販売など個々に経営を行ってきたが、肥培管理等の技術課題に加え、新規顧客の獲得や需要が集中する時期の対応などの経営課題が生まれてきた。そのため、生産者が連携してこれらの課題に対応していく必要がある。	○栽培管理に関する情報共有による技術力向上 ○産地としてのPR活動による新規顧客の獲得	・売上平成26年比100%増 ・イチゴ狩り・直売マップの配布 累計43,000部 ・PRイベント等の実施 1回/年	H27.3
四日市	四日市市、鈴鹿市、菰野町、いなべ市	ニューファーマーズ倶楽部	北勢地域の野菜新規就農者グループによる簡易土壌分析を活用した有機栽培理論に基づく高品質多収穫技術修得に向けたプラン	有機農法による農業を始める新規就農者が増えてきているものの、経験年数も浅く、情報交換等も行われていないことなどから品質、収量が安定していない。そのため、土づくりや施肥設計等の栽培技術を習得し、品質・収量を向上させる必要がある。	○土づくり及び施肥設計に関する研修会の開催 ○土壌分析による土壌及び肥培管理技術のレベルアップ ○品質評価による栽培技術のレベルアップ ○共同販売に向けた販売開拓	・新たな有機栽培技術の理解度向上 ・施肥設計ソフトの活用 ・太陽熱養生処理による土づくり ・新規販売先の開拓 2か所	H27.2

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期																		
四日市	四日市市	智積町農家組合	地域が連携した地産地消による「智積のお米」ブランド化プラン	町内では兼業農家による自作農が多く行われているものの、今後は、担い手への経営委託が増加することが予想される。一方、担い手農家には、米単価の低下等により維持管理面での不安がでてくる。このため、これまで行われてこなかった地元産米の地域内販売を拡大させ、経営安定を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○地元産米（「智積のお米」）の地域内販売 ○地域内温泉施設と連携した販売拡大 ○農地・水・環境保全向上活動を通じたPR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内温泉施設での活用 ・農地・水・環境保全向上活動メンバーによる消費拡大 	H27.2																		
四日市	鈴鹿市	鈴鹿茶・新品種研究会	茶新品種「きらり31」を活かした鈴鹿かぶせ茶産地元気化プラン	地域で栽培されるお茶の90%以上を占める「やぶきた」は、昭和50年代に植えられたものが多く、生産性が低下している。芽売り農家等からの茶園集積により担い手の経営面積は増加してきているものの、高樹齢化が収益低下の一因となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○茶新品種「きらり31」の生育情報の共有 ○県内茶業者への情報発信 ○苗木の県内生産販売 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状(H26)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H36)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・会員数</td> <td>7人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>・「きらり31」栽培面積</td> <td>0.9ha</td> <td>100ha</td> </tr> <tr> <td>・苗木生産本</td> <td>-</td> <td>200万</td> </tr> <tr> <td>・荒茶販売</td> <td>-</td> <td>150t</td> </tr> </tbody> </table>		現状(H26)	目標	(H36)			・会員数	7人	50人	・「きらり31」栽培面積	0.9ha	100ha	・苗木生産本	-	200万	・荒茶販売	-	150t	H27.3
	現状(H26)	目標																							
(H36)																									
・会員数	7人	50人																							
・「きらり31」栽培面積	0.9ha	100ha																							
・苗木生産本	-	200万																							
・荒茶販売	-	150t																							
四日市	四日市市	北五味塚農地組合	北五味塚の水田農業を守る仕組みづくりの構築	平成25年度に行われたアンケート結果によると、主たる農業従事者の年齢が50歳以上の占める割合が約94%と高齢化が進んでいる。そのため「水田を守る仕組みづくり」が求められている。	<ul style="list-style-type: none"> ○人・農地プランの活用 ○農地利用調整システムの構築 ○担い手の育成 ○集落ぐるみでの水田の維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落ビジョンの作成 ・担い手の確保 ・水田の面的集積 	H27.3																		

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
四日市	四日市市	西阿倉川農家組合	西阿倉川の水田農業を守る仕組みづくりの構築	地区内の水田は地区外担い手への利用権設定が進み、組合員数が減少している。そのため、将来、水田を維持管理していくことが困難となることが予想される。	○農地利用調整システムの構築 ○組合員の確保 ○人・農地プランの継続的な見直し	・作業料金表の作成 ・地権者の再加入	H27.2
津	津市	一志・白山キャベツ部会	一志・白山キャベツ部会の地域活性化プラン	一志・白山地区では、露地野菜中心経営を行う農家が多くあり、冬キャベツと春キャベツの野菜指定産地に指定されている。高齢化により土地利用型農家・法人の大規模化と集落営農組織による地域の営農形態の変化に合わせた、新たな担い手による産地規模の維持が必要となっている。	○牛堆肥の使用やGAP導入による良質キャベツ生産	・牛ふん堆肥を使用したキャベツの収量向上 現状(H24) 目標(H27) .3.5t / 10a 3.8t / 10a ・新品種導入試験・検証の実施 1点以上 / 年 ・三重県型産地GAPの取組開始(H25～)	H26.4
津	津市	JA三重中央なばな部会	JA三重中央なばな部会の地域活性化プラン	県内のなばな生産を支えているものの、生産者の高齢化により作付面積や出荷数量が減少している。このため、良質で安全・安心ななばなを生産するとともに、定年帰農者を中心に新規栽培者を確保していく必要がある。	○牛堆肥の使用やGAP導入による良質なばな生産	・牛ふん堆肥を使用したなばなの収量向上 現状(H24) 目標(H27) 39.3t 45t ・品質向上対策(堆肥の散布) 現状(H24) 目標(H27) 38t 58.5t ・三重県型産地GAPの取組開始(H25～)	H26.4

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	酢 eat lady 白山	柿の加工品開発による産地の振興	50年前に水田転換作物として柿(前川次郎)が導入された。栽培面積は減少しているものの、地区内では米に次ぐ重要な農産物であることから、生果実の販売に加え、加工品(柿酢)の販売に取り組むことにより産地の再興を図る。	隔年結果対策による安定生産、病虫害防除等基本管理の徹底による収量・品質アップ 柿酢の商品化 新規生産者の確保	・共同市場出荷数量 現状(4か年平均) 11,198kgt 目標(H28) 15,000kg ・柿酢販売 現状(H25) - 目標(H27) 1,000本/年 ・生産規模(5ha)の維持	H26.5
津	津市	JA津安芸芸濃ずいき部会	三重の伝統野菜「ずいき」生産を核とした地域農業の再生	「芸濃ずいき」は、戦前から栽培されており、生産面積は、最盛期には10ha以上あったものの、生産者の高齢化等により現在では1.5ha程度となっている。ほぼ全量が京都市場に出荷され、安定した人気を誇っている。今後とも伝統野菜として、また、地域の主力農産物として生産を維持・拡大させていく必要がある。	新規生産者の確保 栽培サポーター制度の導入 品質向上と収量増 地元での消費拡大	・栽培面積 現状(H26) 1.5ha 目標(H30) 2.3ha(5割アップ) ・出荷量 現状(平均) 10,000ケース 目標(H30) 15,000ケース ・県内出荷量 現状(平均) 50ケース 目標(H30) 500ケース 4kg/ケース	H26.8
津	津市	久居果樹振興協議会	残そう！広めよう！津市のブランド「ひさい梨」	久居での梨栽培は明治末期ごろから始まり、現在では栽培面積、収穫量とも県内1位の規模を誇っている。生産者による産地直売が多く、昭和60年ごろには生産者の80～90%が直売店を持っていた。近年、顧客と生産者の高齢化が進み、販売量が減少傾向にある。さらに、新たな道路の開通に伴い、観光客の減少も懸念されている。そのため、これらの環境変化に対応していく必要がある。	○果実品質の高位平準化 ○地域との交流の推進(学校給食への提供) ○販売対策(情報発信力の強化)	・品評会出展品売上 現状(H25) 0 目標(H28) 160千円 (40点出品、800円/kg)	H26.12

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	そらまめ	美杉地域における子育て世代による農村コミュニティの活性化	美杉町内の子育て中の若い女性は、結婚や移住等を機に町内で生活することになった人が多く、近くに子育て仲間がいる都会と違い、孤立感が強い。そのため、子育て世代の交流を促進させ、農村で生活していくうえでの安心感を得ることにより、定住につなげることが求められる。	交流の場としての共同農園の開設 加工品づくり 地域住民との交流促進 新規メンバーの加入促進による活動の継続	・野菜生産 年1作物以上 ・加工品づくり 年1回以上 ・地域交流活動 年1回以上 ・新規メンバーの加入 年1名以上	H26.8
津	津市	みすぎの台所・きりん	地域の女性が地域の資源を活かし地域を元気に！	過疎化が進む美杉町では、若者の流出が続く一方で、美杉に魅力を感じ、移り住む人が増えつつある。こうした中、町内に移り住み、各々で農業を始めていた若手女性が、共同で農産物や農産加工品を販売するための組織を立ち上げた。定住には、所得の確保が必須であることから、農業を通じた起業により生活基盤の安定を図るとともに、移住者や就農者による起業を促す。	農薬や化学肥料の使用を抑えた農産物の生産販売 ファン(顧客)の獲得 地元産農産物を使った加工品開発 農産物、加工品等の販売所の開設	・農産物の栽培数 年20品目 ・イベント等での出張販売 年3回以上 ・加工品開発 2品	H26.8
津	津市	愛菜果	若手農業者の野菜の取り組みによる美里地域の活性化	水稲作が中心の地域であるものの、傾斜地が多く規模拡大が図りにくく、水稲作による大きな経営展開は望めない。こうしたなか、若い農業者達が狭い農地でも集約的に取り組める露地野菜栽培を開始した。収益性の高い施設野菜を早期に導入するとともに、地域内における野菜栽培への関心を高め、新規野菜栽培者を増やすことにより、産地化を目指す。	栽培技術と経営感覚の習得 イチゴやトマト等の施設野菜の導入 地域における野菜栽培の拡大	・施設野菜栽培面積 現状 目標(H30) 0a 30a ・地域内の新規野菜栽培者 10人	H26.11

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	にぎやか畑	地域資源を活かした売れる商品づくりによる地域活性化プラン	河芸町特産物研究会として平成20年に活動を開始し、黒田米を主な原料とした寿司など、地域の食材を活用した特産品の開発に取り組んできた。新たに整備される道の駅で販売する黒田米等を原料とした菓子等の製造販売などに取り組んでいく。	○黒田米等を使った加工品の販売拡大	加工品の売上(H30) 7,600千円 売上数量(H30) 季節のまぜご飯、ちらし寿司 15,870パック おはぎ 4,190パック	H27.2
松阪	松阪市	農事組合法人サンライズ嬉野	営農組合法人を中心とした持続可能な営農体制の確立	昨年3月まで任意組織であったことから利用権設定ができず、農用地の利用集積が進んでいない。法人化後の経営安定に向け、利用権設定による経営規模の拡大や新規作物の導入等が必要となっている。	○麦・大豆の栽培技術の向 ○野菜等新規作物の導入 ○利用権設定による水田面積の拡大	農地の利用集積 30ha	H27.3
松阪	松阪市	西肥留営農組合設立準備委員会	営農組合法人の設立と法人を核とした持続可能な営農体制の確立	もともと機械協業組合であったが、任意組合のため機械の更新や農地の利用権設定ができなかった。このため、平成27年度中に農事組合法人を設立する。今後、営農組合法人の経営を安定化させるため、利用権設定による経営規模の拡大するとともに、野菜等の新規作物の導入等を行う必要がある。	○営農組合法人の設立 ○利用権設定による経営面積の拡大 ○野菜等の新規作物の導入	農地の利用集積 10ha	H27.3

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期								
松阪	松阪市	下茅原営農組合	組織体制の強化と組合を核とした農業・農村の活性化	水田中心の農業地帯で、水稲については、基本的に集落内の担い手が担っている。今後、未整備田等収益性の悪いほ場を担い手等が管理していくことが予想される。農業者の高齢化が進むなかであって、青壮年が地元に残っているため、将来組合の後継者となるよう連携を深めていくことが必要となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○組織力強化 ○後継者確保 ○新規作物の導入 ○新たなエコファーマー計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・組合の体制強化 ・環境にやさしい農業の実施 	H27.3								
松阪	松阪市	JA松阪いちご部会	いちご部会の活性化に向けた取り組み	県内有数のいちご産地であったが、生産者の高齢化等により産地規模が縮小傾向にある。そのため、将来、産地を担う若手生産者の育成が必要となっている。また、育苗期における炭疽病の蔓延や定植後のハダニ類の被害へ対策が急務となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培技術の向上 ○収量の向上 ○GAPの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・共撰反収 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">現状(H25)</td> <td style="text-align: center;">目標(H27)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2.4t</td> <td style="text-align: center;">3.0t</td> </tr> </table>	現状(H25)	目標(H27)	2.4t	3.0t	H27.3				
現状(H25)	目標(H27)														
2.4t	3.0t														
松阪	松阪市	紅工房	みえの伝統野菜「松阪赤菜」を核とした地域の活性化及び地域資源を活かした農産加工品の開発と販売	松阪赤菜は、約400年前に近江から松阪に伝えたとされている。一時流通が途絶えていたが、農家の女性グループである紅工房が復活させ、栽培から加工(漬物)、販売まで行っている。農業者の高齢化が進むなか、伝統野菜である松阪赤菜の生産を維持していくためには、女性をはじめ多様な担い手の育成が必要となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培面積の拡大 ○担い手の確保 ○松阪赤菜のPR ○農家レストランの開業 	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">現状(H26)</td> <td style="text-align: center;">目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(H29)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・栽培面積</td> <td style="text-align: center;">50a 1ha</td> </tr> <tr> <td>・生産者数</td> <td style="text-align: center;">10名 20名</td> </tr> </table>	現状(H26)	目標	(H29)		・栽培面積	50a 1ha	・生産者数	10名 20名	H27.3
現状(H26)	目標														
(H29)															
・栽培面積	50a 1ha														
・生産者数	10名 20名														

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期															
松阪	松阪市	ベルファーム農家市場 ベル農会	安全・安心・魅力ある生産物づくりと食育体験を通じた地域農業への貢献	農産物の出荷のほか、ベルファーム内の農場を活用して農作業体験等を通じた食育事業(農水省 教育ファーム事業)を実施している。そうしたなか、300名余りの生産者は、65歳以上の高齢者が9割以上を占めており、若手生産者が活躍できる場づくりや栽培出荷体制の強化、販売力の強化、教育ファーム事業の補助制度終了後の実施体制の検討等が必要となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○安全安心で高品質な農産物生産 ○食育の推進 ○地産地消・学校給食支援 ○販売促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術研修会の開催 ・食育推進事業(栽培収穫体験等) ・学校給食への食材提供 	H27.3															
松阪	多気町	JA多気郡 伊勢いも部会	伝統野菜伊勢いもの産地力強化への取り組み	工業団地の立地を契機に兼業化が進んできた。さらに、機械更新時や世代交代等を機に、第2種兼業農家の離農が高まり、農地の遊休化等が懸念されている。こうしたなか、伝統野菜である伊勢いもの振興に向け、新たな生産者の確保等による産地の維持・発展が求められている。	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培面積の維持拡大 ○新たな栽培技術の導入(労力軽減) ○施肥体系の改善による反収増 ○品質向上による販売力の強化 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状(H26)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H30)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・栽培面積</td> <td>8.3ha</td> <td>8.3ha</td> </tr> <tr> <td>・販売量</td> <td>40t</td> <td>50t</td> </tr> <tr> <td>・反収</td> <td>1,000kg</td> <td>1,200t</td> </tr> </tbody> </table>		現状(H26)	目標	(H30)			・栽培面積	8.3ha	8.3ha	・販売量	40t	50t	・反収	1,000kg	1,200t	H27.3
	現状(H26)	目標																				
(H30)																						
・栽培面積	8.3ha	8.3ha																				
・販売量	40t	50t																				
・反収	1,000kg	1,200t																				
松阪	多気町	片野営農組合	組合体制の強化と組合を核とした農業・農村の活性化	水稻を中心に施設野菜、茶など、多様な農業が営まれている。水稻栽培については、基本的に集落内の担い手が行っている。今後、作業条件が悪く収益性の低いほ場を管理していくことが予想されている。農業者の高齢化が進んでいるものの、地元には青壮年が残っていることから、農地の管理者として育成していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○担い手を支える営農組合への再構築 ○法人化の検討 ○担い手の自立化 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織強化 	H27.3															

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
松阪	多気町	西池上営農組合	多気町西池上地区における営農組合の経営力強化と営農組合を核とした農業・農村の活性化	地区内では、農用地利用改善組合の調整により水稲・麦・大豆のブロックローテーションが行われ、当組合が麦・大豆の作業を受託している。水稲については、現在、各農家が担っている。しかし、今後、組合に集積していく計画であり、未整備田等条件の良くないほ場の管理を行うことも予想されることから、経営安定による組織力強化が必要となる。	○麦栽培の技術向上 ○野菜等新規作物の導入 ○収穫祭等を通じた非農家との交流促進	・法人化	H27.3
松阪	明和町	坂本農家組合	組合体制の強化と組合を核とした農業・農村の活性化	水稲を中心に施設野菜、畜産など、多様な農業が営まれている。水稲栽培については、基本的に集落内の担い手が行っている。今後、作業条件が悪く収益性の低いほ場を管理していくことが予想されている。農業者の高齢化が進んでいるものの、地元には青壮年が残っていることから、農地の管理者として育成していく必要がある。	○組合の体制強化 ○農地集積の推進	・オペレーター組織設立	H27.3
伊勢	度会町	伊勢緑茶加工センター 有限会社	伊勢茶産地、度会町の茶生産を「守り」「育て」そして「世界」へ！	町内の茶作付面積が10年前から30ha減少した。また、製茶工場は、本加工センターが設立した平成17年度以降再編が進み、30から17に減少した。さらに、現在操業中の製茶工場でも後継者が不足しており、本加工センターは、産地の基幹製茶工場として機能充実が求められている。	ハイレベル茶生産技術(ICT)による茶生産基盤づくり GAP 実需者ニーズに対応可能な生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・利用権設定面積 現状(H26) 2,700a 目標(H34) 4,000a ・買い葉面積 現状(H26) 2,200a 目標(H34) 1,500a ・高性能品種茶園面積 現状(H26) - 目標(H34) 500a ・GAP導入対象面積 現状(H26) 27ha(自作園) 目標(H34) 100a(町全体) 	H26.10

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
伊勢	伊勢市、志摩市	JA伊勢 バラ部会	日本最高のバラを伊勢から	新技術の導入等を意欲的に行っており、高品質なバラの産地として市場評価は高い。しかし、プライダル等の業務需要が中心で、小売店では産地表示がされずに販売されることが多いため、伊勢が高品質なバラの産地であることはあまり知られていない。	<ul style="list-style-type: none"> ○先端技術の導入による高品質の追求 ○消費者の多様なニーズへの対応 ○高品質なバラ産地としての知名度向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売単価の向上 ・販売額の増加 	H27.2
伊勢	伊勢市	JA伊勢 青ねぎ部会	若手農業者の育成による産地活性化	近年、青ねぎ経営に取り組む青壮年層の農家が増加し、青ねぎ中心の専業農家の比率が高まりつつある。しかし、依然として70歳以上の高齢者の割合が高いことから、産地を発展させていくため、若手農業者の育成が急務となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○部会プロジェクトチームによる圃場巡回等 ○周年安定生産技術の確立 ○市場ニーズに対応した商品開発（新出荷規格） 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営計画を達成する若手農業者率 100% ・周年栽培モデルの作成 1 ・新商品開発 1 	H27.2
伊勢	鳥羽市	麻生の浦会	地域資源を活用し新たな集客を求めて～今浦朝市からの発展「地域食材を活かした農家レストランの構築」～	鳥羽市は半農半漁型の生産者が多いのが特徴で、当会も運営する今浦朝市において、農産物と海産物を販売しており、観光スポットとしての知名度も高い。地域のさらなる活性化を図るため、朝市を核とした新たな集客づくりの仕組みを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ○農家レストランの開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営理念、体制づくり等の検討 ・運営マニュアルの作成 ・観光客を通じたPR ・SNSを活用した情報発信 	H27.3

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期																		
伊勢	伊勢市	宮前生産調整実行組合	小麦種子生産の安定化と中核となる担い手の確保	長年にわたり取り組んできた小麦生産の経験を生かし、平成16年度から小麦種子生産に切り替え、現在では、主要な生産基地となっている。しかし、連作障害による収量の伸び悩みや、近隣農家から供給を受けている堆肥の品質低下等の課題が生じてきており、その対応が必要となっている。	○連作障害の回避 ○糞尿処理施設の稼働状況に対応した作付体系の確立 ○若手オペレーターの確保	・土壌診断、堆肥散布面積 12.3ha / 年 ・反収 368kgの維持 ・新規オペレーターの確保 1名	H27.2																		
伊勢	大紀町	若瀬の集落営農を考える会	若瀬地区の集落営農組織の設立による農地の保全と集落機能の活性化	本地域は、「七保牛」の産地として有名で、松阪牛の主要な産地となっている。水田は基盤整備され、集落ぐるみによる獣害対策や中山間地域直接支払を活用した農地保全に取り組んでいるものの、農家の高齢化が進み、高低差の大きい農地や延長の長い用水路の維持管理が困難となってきている。	○営農組合の設立による農地保全、集落機能の活性化	・集落営農組合の設立	H27.3																		
伊勢	伊勢市	J A伊勢蓮台寺柿部会	「蓮台寺柿」の収益向上を目指した取組による産地振興	蓮台寺柿は、個性的な果形が特徴の渋柿で、市の天然記念物にも指定されている貴重な特産品である。しかし、近年では、価格低迷により生産意欲が低下傾向にある。また、加工品の干し柿「ひなたやけ」は、需要に対し生産量が不足気味となっている。	○新たなファンの獲得、リピーター確保 ○干し柿「ひなたやけ」の販売拡大 ○放棄園解消策の検討 ○篤農技術の明文化と技術実証	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>現状(H26)</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>(H29)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・小学校へのPR</td> <td>3回</td> <td>8回</td> </tr> <tr> <td>・干し柿増産に向けた検討</td> <td>-</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>・放棄園意向調査</td> <td>-</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>・篤農技術の聞き取り</td> <td>-</td> <td>2人</td> </tr> </table>		現状(H26)	目標	(H29)			・小学校へのPR	3回	8回	・干し柿増産に向けた検討	-	5回	・放棄園意向調査	-	5回	・篤農技術の聞き取り	-	2人	H27.3
	現状(H26)	目標																							
(H29)																									
・小学校へのPR	3回	8回																							
・干し柿増産に向けた検討	-	5回																							
・放棄園意向調査	-	5回																							
・篤農技術の聞き取り	-	2人																							

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期																		
伊賀	伊賀市	JAIがほくぶなばな部会	なばなのバラ出荷の導入による生産性の向上と新たな販路の拡大	県内において、なばなの栽培面積は減少してきているものの、当地域は産地規模が維持されている。しかし、生産者の高齢化は進んでおり、また、収量が他地域に比べて少ないことから、将来を見据え、新規栽培者の確保・育成や栽培技術の向上に取り組んでいく必要がある。	○なばなのバラ出荷の導入 ○収量・品質の向上 ○販促活動の強化	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状(H26)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H30)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・栽培面積</td> <td>5.2ha</td> <td>5.5ha</td> </tr> <tr> <td>・集出荷量</td> <td>23.4t</td> <td>26t</td> </tr> <tr> <td>・平均反収</td> <td>450kg</td> <td>470kg</td> </tr> <tr> <td>・生産者数</td> <td>57人</td> <td>60人</td> </tr> </tbody> </table>		現状(H26)	目標	(H30)			・栽培面積	5.2ha	5.5ha	・集出荷量	23.4t	26t	・平均反収	450kg	470kg	・生産者数	57人	60人	H26.10
	現状(H26)	目標																							
(H30)																									
・栽培面積	5.2ha	5.5ha																							
・集出荷量	23.4t	26t																							
・平均反収	450kg	470kg																							
・生産者数	57人	60人																							
伊賀	伊賀市	JAIがほくぶ直売部会	新たな直売所の開設をきっかけとした組織の拡大と直売所運営への参画	市場出荷向けの野菜品目が少なく、直売部会員数も横ばい状態にある。しかし、直売に関心を持つ適量多品目野菜の生産者が多く、直売所がリニューアルし売り場面積も拡大したことから、部会員自ら売れる店舗づくりに参画するとともに、部会員数を増やしていく。	○部会員の拡大 ○適量多品目栽培の推進 販促活動の強化	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状(H25)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H30)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・販売額</td> <td>131,248千円</td> <td>360,000千円</td> </tr> <tr> <td>・部会員数</td> <td>390名</td> <td>600名</td> </tr> <tr> <td>・常時出荷者</td> <td>110名</td> <td>350名</td> </tr> </tbody> </table>		現状(H25)	目標	(H30)			・販売額	131,248千円	360,000千円	・部会員数	390名	600名	・常時出荷者	110名	350名	H26.10			
	現状(H25)	目標																							
(H30)																									
・販売額	131,248千円	360,000千円																							
・部会員数	390名	600名																							
・常時出荷者	110名	350名																							
伊賀	伊賀市	企業組合 旬菜工房笑み	ひじき交流から生まれた農産物、海産物等の加工販売を通じての地域の活性化	地域の農業は(農)ひじきファームが担う体制が整ってきている。また、地域内では、鳥羽市答志島との文化的・経済的交流や女性・高齢者を中心とした朝市等が活発に行われている。今後は、これらの取組を基盤として、女性や高齢者が活躍できる新たな事業を創出していく。	○地域の食材を活用した加工品(惣菜、こんにゃく、漬物、ジャム等)の製造・販売	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状(H26)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H27)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・こんにゃく</td> <td>-</td> <td>2,520丁</td> </tr> <tr> <td>・ジャム</td> <td>-</td> <td>50個</td> </tr> <tr> <td>・漬物</td> <td>-</td> <td>160袋</td> </tr> <tr> <td>・佃煮</td> <td>-</td> <td>600個</td> </tr> </tbody> </table>		現状(H26)	目標	(H27)			・こんにゃく	-	2,520丁	・ジャム	-	50個	・漬物	-	160袋	・佃煮	-	600個	H26.10
	現状(H26)	目標																							
(H27)																									
・こんにゃく	-	2,520丁																							
・ジャム	-	50個																							
・漬物	-	160袋																							
・佃煮	-	600個																							

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期																		
伊賀	伊賀市	農事組合法人市部営農組合	市部地区における営農組合を核とした水田農業の振興	平成25年に法人化し、集落の担い手として米・小麦の生産を行っている。農地を預けたいとする農家が増えるなか、オペレーターの確保や畔草の管理等が課題となってきた。米主体では、今後の経営が厳しくなることが予想されることから、新たな作物の導入等により、経営の安定化が必要となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○経営規模の拡大 ○米、麦の収量及び品質の向上 ○オペレーターの育成と技術力向上 ○農産物加工、販売の検討 	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">現状(H26)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H29)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・経営規模</td> <td>4.2ha</td> <td>20ha</td> </tr> <tr> <td>・反収(米)</td> <td>490kg</td> <td>540kg</td> </tr> <tr> <td>・反収(麦)</td> <td>215kg</td> <td>240kg</td> </tr> <tr> <td>・オペレーター</td> <td>10名</td> <td>15名</td> </tr> </tbody> </table>	現状(H26)		目標	(H29)			・経営規模	4.2ha	20ha	・反収(米)	490kg	540kg	・反収(麦)	215kg	240kg	・オペレーター	10名	15名	H26.11
現状(H26)		目標																							
(H29)																									
・経営規模	4.2ha	20ha																							
・反収(米)	490kg	540kg																							
・反収(麦)	215kg	240kg																							
・オペレーター	10名	15名																							
伊賀	名張市	JA伊賀南部なばな部会	生産性の向上と新規栽培者の確保による産地力強化	県内においてナバナの栽培面積は減少してきているものの、当地域では産地規模は維持されている。しかし、生産者の高齢化は進んでおり、また、収量が他地域に比べて少ないことから、将来を見据え、新規栽培者の確保・育成や栽培技術の向上に取り組んでいく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○新規栽培者の確保 ○栽培面積の維持・拡大 ○コンテナ出荷の導入 ○販促活動の強化 	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">現状(H25)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H30)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・栽培面積</td> <td>2.8ha</td> <td>4.0ha</td> </tr> <tr> <td>・集出荷量</td> <td>18.6t</td> <td>25t</td> </tr> <tr> <td>・出荷額</td> <td>9,120千円</td> <td>12,500千円</td> </tr> <tr> <td>・生産者数</td> <td>29人</td> <td>40人</td> </tr> </tbody> </table>	現状(H25)		目標	(H30)			・栽培面積	2.8ha	4.0ha	・集出荷量	18.6t	25t	・出荷額	9,120千円	12,500千円	・生産者数	29人	40人	H26.12
現状(H25)		目標																							
(H30)																									
・栽培面積	2.8ha	4.0ha																							
・集出荷量	18.6t	25t																							
・出荷額	9,120千円	12,500千円																							
・生産者数	29人	40人																							
尾鷲	尾鷲市	NPO法人 天満浦百人会	天満浦地区の地域資源を活かした地域活性化	古くからの甘夏産地にあって、高齢農家から農地を借り受け、栽培管理を担いながら甘夏の加工品開発や古民家を活用したカフェを運営している。耕作放棄地は増える傾向にあることから、新たな活用方法を模索しながら地域の活性化を図っていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○みかん山を活用した体験イベント等による集客 ○小中学校への出前講座等による地域内におけるみかんの消費拡大 ○加工品開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・甘夏ジュースづくり体験 200名 ・甘夏みかん狩り体験 100名 ・甘夏加工品づくり(マーマレード) 70kg ・甘夏摘果体験 20名 	H27.3																		

地域活性化プラン一覧（平成26年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
熊野	御浜町	有限会社すぎもと農園	すぎもと農園の経営安定と三重県東紀州地域の産地ブランド確立	若者を中心とした生果離れなどから柑橘の消費が年々減少するなか、これまで「すその処理」などとして行われてきた果汁加工が、生産物の高付加価値化として取り組まれる傾向にある。このため、消費者ニーズや健康機能性研究の成果をいかに製品開発に生かしていくかが課題となる。	<ul style="list-style-type: none"> ○品質の安定化と反収の増加 ○管理作業(生育管理、施肥、防除、収穫)におけるコスト削減 ○6次産業化への積極的展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・反収 現状(H26) 2.2t 目標(H28) 2.6t ・秀品率 現状(H26) 50% 目標(H28) 65% ・収穫コスト20%削減 ・防除コスト30%削減 ・施肥コスト20%削減 	H27.3
熊野	紀宝町	紀宝町水田営農推進協議会	相野川・相野谷川流域で多様な水田活用による地域活性化	当該組織が土地利用調整を行い、受託者組織(2組織)と連携して地域の畜産農家への稲WCS・稲わらの供給や環境にやさしい米づくり等を行っている。集積が水系やブロックで行われていないため、主力品種のコシヒカリと熟期の異なる飼料用稲の栽培の際には、水利上不便を来している。そのため、担い手への面的集積を進めるとともに、水利を整理・調整する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○土地利用調整・農地集積システムの確立 ○飼料用稲の栽培推進 ○地元産米の高付加価値化 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用調整ルールの確立 2か所 ・米穀コンバインを改造した高品質稲WCS収穫技術の確立 8ロール / 10a ・飼料用の多収低コスト施肥技術の確立 玄米収量 466kg / 10a 	H27.3
熊野	紀宝町	農事組合法人紀宝マイヤーレモン生産組合	安全安心な国産マイヤーレモンのブランド化	栽培に適した気候を生かし、平成11年からマイヤーレモンを栽培している。地域の基幹作物である柑橘の価格が低迷するなか、生果は、大量に販売することは難しいものの、販売価格は安定している。そのため、生果の販売拡大に取り組むとともに、引き続き実需者からの果汁要望に応えられるよう、収量向上に向けた栽培技術の確立や栽培面積の拡大に取り組んでいく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○生果の販売拡大 ○安全安心の取組等によるブランド力の強化 ○果汁生産量の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・生果販売 現状(H26) 60t 目標(H28) 90t 共販 - 15t 新商品 - 200セット (詰め合わせセット) 栽培面積 200a 220a ・果汁販売 現状(H26) 10,000L 目標(H34) 20,000L 	H27.3

地域活性化プランに関する問合せ先

問合せ先	電話番号
三重県 農林水産部 担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農業基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122